大切にまもろう!みんなの自ぜん

生きものいっぱい　しげとみ海がん

「あっ、かにだ。」
「あっちにも。わあ、こっちにも。」
ゆうきは、おじいちゃんといっしょにしげとみ海がんにあそびに行きました。この海がんはしおが引くと、さっきまで海だったところに、『ひがた』というすなはまが遠くまで広がり、いろいろな生きものが顔を出します。
ゆうきはむちゅうになって、かにや貝をつかまえてはバケツに入れました。バケツの中は見たことのない生きものでいっぱいになりました。
「おじいちゃん、これなあに。」
ゆうきがたずねると、おじいちゃんは、
「それはオサガニだよ。」
と、オサガニのことや、ニホンスナモグリという名の水をきれいにしてくれる生きものがいることも、話してくれました。
「でも、こんなにかわいいオサガニが見られるのも、さいきんになってからなんだよ。おじいちゃんの小さいころは、もっといたんだけどね。」
「えっ、だんだんいなくなったの。どうして。」
ふしぎに思ったゆうきは、おじいちゃんにたずねました。
「人間が、だんだん海をよごしてしまい、生きものが少ない海がんになってしまったのさ。でも海をまもらないといけないことに気づき、よごれた水やごみをすてないようにしたんだよ。そして、長い年月をかけて、ようやく前のような多くの生きものがすめるきれいな海がんにもどせたんだよ。」
遠くまで広がるすなはま。青い海のむこうに桜島が白いけむりをあげています。

オサガニ　©くすの木自然館

ニホンスナモグリ
©くすの木自然館

しげとみ海がん
（霧島錦江湾国立公園）
300しゅるいの生きものがすんでいる『ひがた』

ゆうきは、この美しいけしきや、バケツの中の生きものを見つめながら、しばらく考えていました。
空が夕やけにそまりはじめたころ、
「帰るぞ。」
ふいに、おじいちゃんの声がしました。
「はあい。ちょっとまっててて。」
そう言うと、ゆうきは、せっかくつかまえた生きものにむかって、何かを一ぴきずつひがたにかえしはじめました。
ささやきながら、そして、バケツに何もいないのをたしかめると、おじいちゃんの方に、かけだしました。
夕日になみがきらきらかがやき、にがした生きものの話し声が聞こえてくるようでした。